

# うしお

第 122 号

昭和 41 年 8 月

## 目 次

大口養魚場業務概況（6月分）	大口養魚場	1
定置観測（7月分）	養殖部	4
昭和41年の鹿児島湾附近に おけるパンヨウカジキ漁況 （流刺網）の見透し	漁業部	6
41年度本県のブリ仔採捕状 況	調査部 荒牧孝行	8
奄美短信	大島分場	11
業務概況	編集部	13

鹿児島市城南町20番12号

## 鹿児島県水産試験場

大口養魚場業務概況（6月分）

大口養魚場

1、概況

梅雨期に入ると、例年ニジマス1年魚に細菌性の疾病が発生しているが、本年は現在までのところ発生していないし、成長も全般的にすこぶる良好である。アユは6月13日鰻池産小アユ（1尾1.5g平均）を60kg放養し、種苗価値について調べる。

コイ稚魚も5月産卵の分はすでに3～4cmに成長し、7月上旬から出荷できる見通しである。

40年度に完成した浄化沈澱池は、その効果が大きく用水管理に役立つている。

2、飼育概要

魚種名	6月1日 推定飼育数	6月の 増重量	処 分 内 訳				6月末日 飼育推定数
			販売数	死魚	供試魚	贈与 不明減耗	
稚マス	701,580尾		9,500尾	4,250尾			687,830尾
食用及候補	1,7105 <sup>kg</sup>	565.8 <sup>kg</sup>	380.7 <sup>kg</sup>	0			1,8956 <sup>kg</sup>
親マス候補	2,405尾		0	0			2,405尾
親マス	412尾		0	0			412尾
稚コイ (0年魚)							322,000尾
稚コイ (1年魚)	1,000尾		0	0			1,000尾
親コイ	188尾		0	0			188尾
アユ	30 <sup>kg</sup>	11.1 <sup>kg</sup>	0	0			211 <sup>kg</sup>

3、種苗配付状況

氏名	尾数	住所	種苗用途
堂園正徳	1,500	あい良郡栗野町木場	池中養殖
上松瀬一夫	8,000	あい良郡霧島町田口400	池中養殖

4、給餌の概要

餌料名	魚種名	ふ化稚マス	食用及候補	親マス	稚ゴイ	親ゴイ	アユ
マス餌付	№1	83.5 kg					
〃	№2	37.1 kg					
ペレット	№2	358.5 kg					
〃	№3	201 kg					
〃	№4		445 kg				
〃	№5		281 kg	240 kg			
ハマチ用	№5		30 kg	78 kg			
鱈用粉末			66 kg	6 kg			
鯉用	№2				157 kg		
〃	№4					83 kg	
鯉用粉末					318 kg		
フィードオイル		13.8 kg	7.8 kg	4.2 kg			
魚粉			36 kg	12 kg			12 kg
小麦粉			42 kg	10 kg			6 kg
鮮魚			36 kg	20 kg			66 kg
鮎用粉末							241 kg
ロメジンソーダ					0.6 kg		
干あみ							12 kg

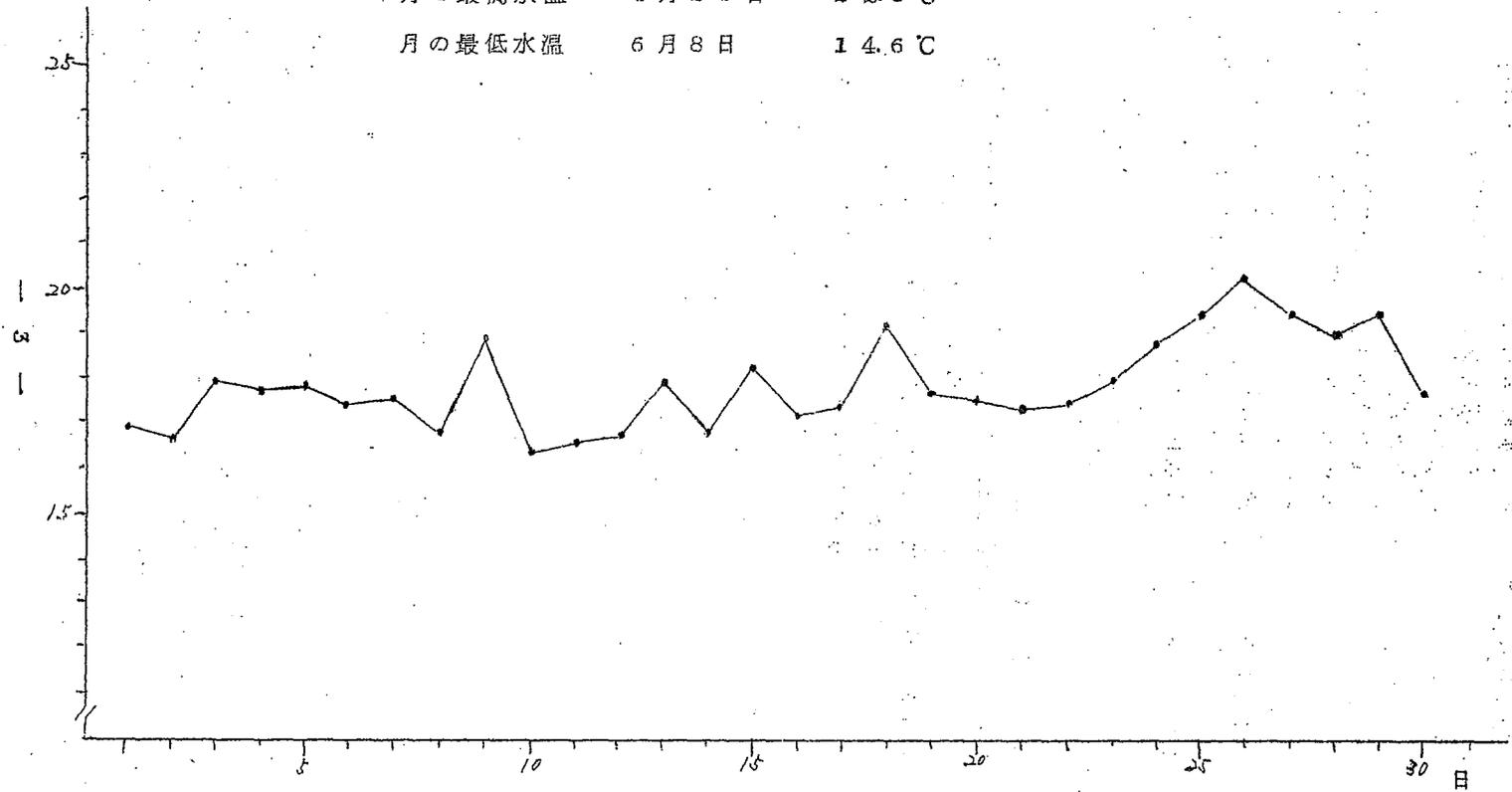
5、こいの産卵概要

産卵月日		6月2日
使用尾数	♀の尾数(重量)	15尾(28.83kg)
	♂の尾数(重量)	45尾
産卵した♀の尾数		12尾
産卵後の♀の減重量		2,670g
換算卵数		1,335,000粒
一尾産卵数		111,250粒
推定ふ化率(数)		50%(668,000尾)
放養尾数(ミジンコ池)		467,000尾

6月の平均水温 (用水路)

月の最高水温 6月26日 22.3℃

月の最低水温 6月8日 14.6℃



6、6月の動き

- 6月1日～4日 鹿大水産学部増殖科3年生14名実習。  
コイ産卵及び養魚実習を行う。
- 6月8日 定期監査
- 6月9日、14日 タウナギ到着  
琉球大学篠原教授の斡旋により購入、当场にて飼育試験  
を行う。台湾、中国では食用(薬用)として珍重がら  
れている。
- 6月15日 魚病及び養魚講習会 出水市  
養魚同好会の依頼により講習会に出席。
- 6月18日 淡水区水産研究所長来場  
県がアユ養殖コンサルタントとして招聘したもので、指  
導を受ける。

魚病治療指導

- 6月19日 指宿市 大茂養魚場 稚ゴイのエラぐされ病  
ホルマリン消毒及びサルファ剤の投薬
- 6月22日 加治木町 恒松養魚場  
イカリ虫 ----- ディアテレックス0.2PPM消毒  
稚ゴイのエラぐされ ----- クラゾリドン投薬

定 置 観 測 (7月分)

養 殖 部

○ 旬別平均水温・比重(満潮時表面)

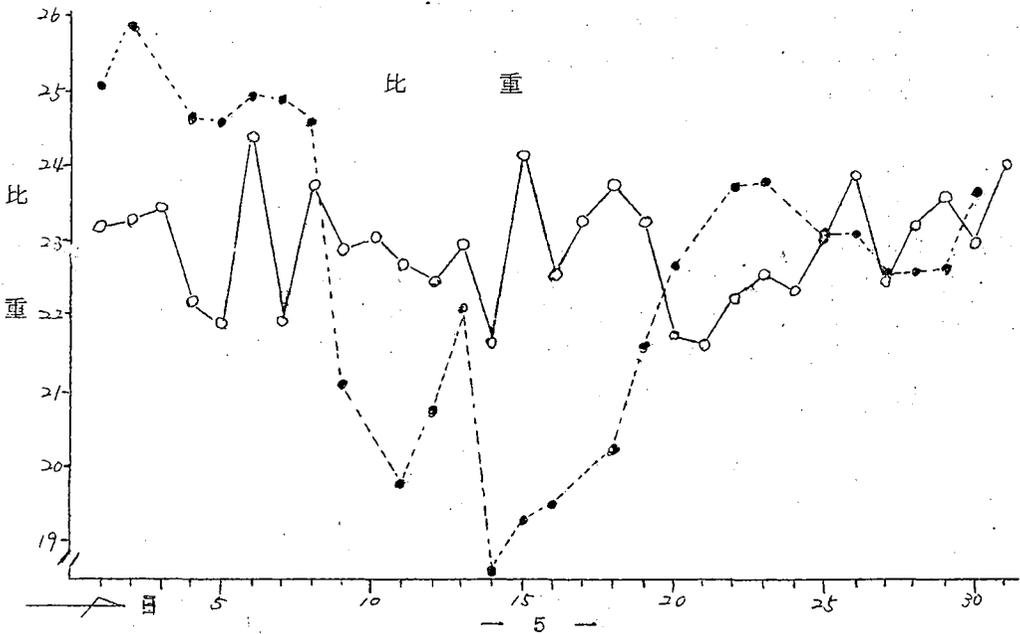
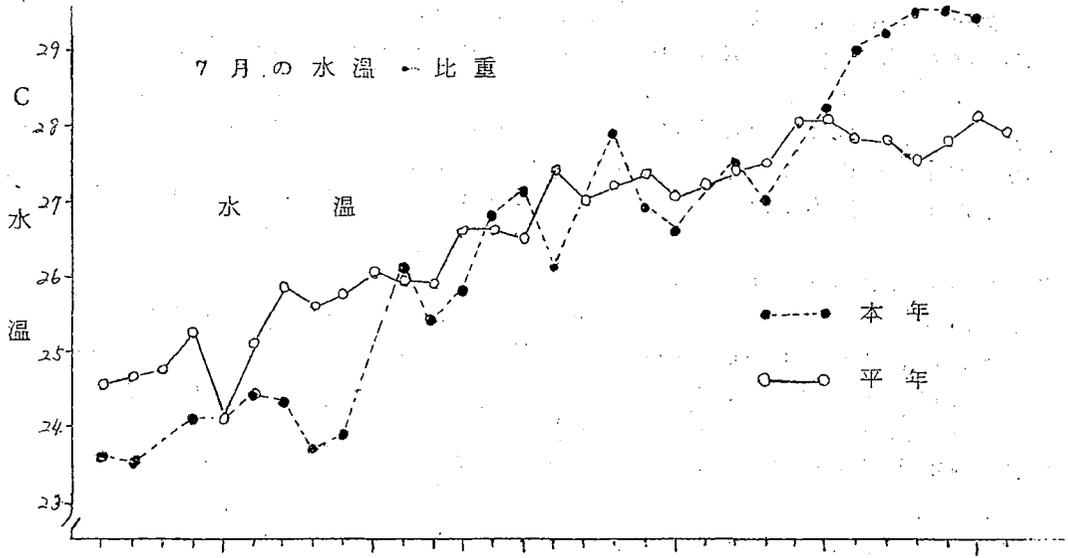
旬	水 温 ℃				比 重 ρ15			
	本 年	前 旬 差	前 年 同 期 差	平 年 差	本 年	前 旬 差	前 年 同 期 差	平 年 差
上	23.95	-0.34	-0.08	-1.21	24.42	+0.13	+1.17	+1.49
中	26.52	+2.57	-0.03	-0.24	20.46	-3.96	-3.13	-2.36
下	28.66	+2.14	+0.56	+0.91	23.09	+2.63	+0.32	+0.23
月平均	26.38	+3.77	+0.47	-0.18	22.57	-2.61	-0.71	-0.31

○ 水 温

上旬は24℃内外と平年より1℃低目であつたが、中旬に急に昇温して平年並になり、下旬は後半に29℃台を示す日が続き平年より1℃高目となつた。つまり上旬は大雨が続いたが中旬以降晴天高温が続いたためと思われる。月平均水温は26.4℃と前月より3.8℃昇温したが平年より0.2℃低目となつた。

○ 比 重

上旬は25内外と高かんを示したが、大雨のため中旬からは低かん状態となり、下旬に平年並に回復した。月平均値は22.6で、前月より2.6低くなり、平年より0.3低目を示した。



昭和41年の鹿児島湾附近における  
バシヨウカジキ漁況（流刺網）の見透し

漁業部

1、今年が不漁年ではないかと思われる事項

- (1) 流刺網によるバシヨウカジキの好漁年は、春期における鹿児島湾にアジ、サバ、カタクチ等の来游が多い年にその可能性が強いが今年の来游量は極めて少なかった。（第1図）
- (2) 湾口の沿岸水の張り出しは強く、湾口附近では8月上旬表層30m層間の水温差が9℃以上みられ、又沿岸各域にはニゴリ、二重潮の現象もみられて海況的条件としてはあまりよくない。（第2図）
- (3) 湾内では、例年6月中旬頃からバシヨウカジキをみるが、今年は8月上旬になつてもあまりみかけない。
- (4) 8月上旬現在の漁獲尾数が、近年においては最低であつた。
- (5) 本年初夏における南方海域のマグロ船によるバシヨウカジキの漁況は、38年のような好漁はみられず、昨年並かそれをやゝ上廻る程度と推定される。

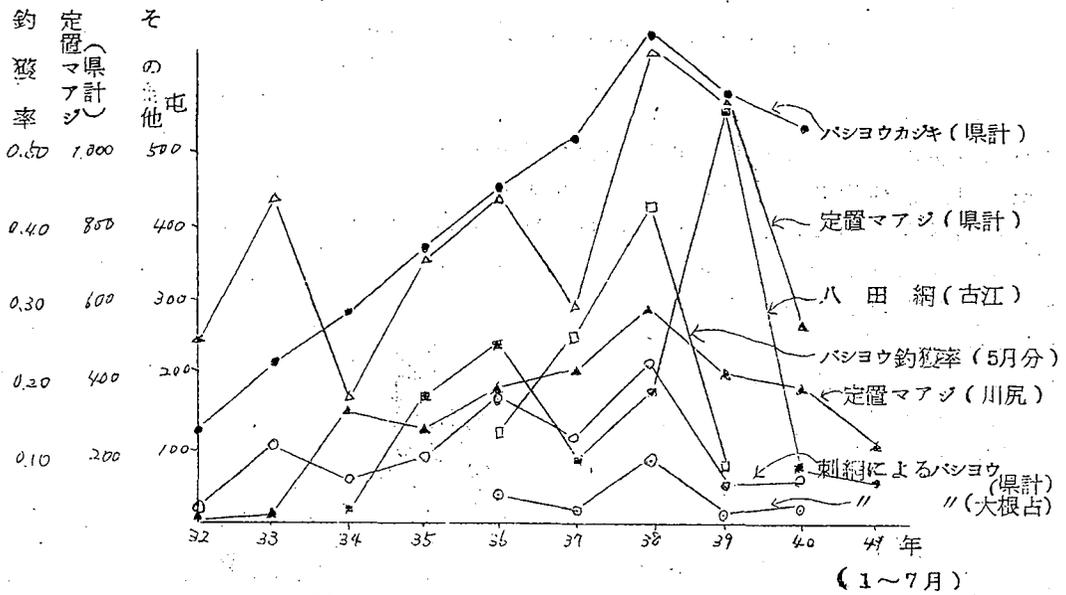
2、今年の状況が好条件と思われる事項

- (1) バシヨウカジキの好漁年の水温変化（屋久島一湊表面水温平年偏差）は春季低温、夏～秋季高温の年に可能性が強い。  
今年春～夏期低温、8月初旬が高温への転期にあつて、中層以下も含めこのまゝ高温期が持続されれば好漁型の海況となる。
- (2) 今年の種子島東方海域の小型マグロ船によるバシヨウカジキ漁況は前年より上廻っている。
- (3) 湾口附近では、7月中旬以降アジ、サバ類の来游が多くなつてきた。
- (4) バシヨウカジキ流刺網による漁獲量の経年傾向は隔年周期をくりかえし、39、40年は不漁が続いたが、近年においては3年連続の極端な不漁はない。（第1図）

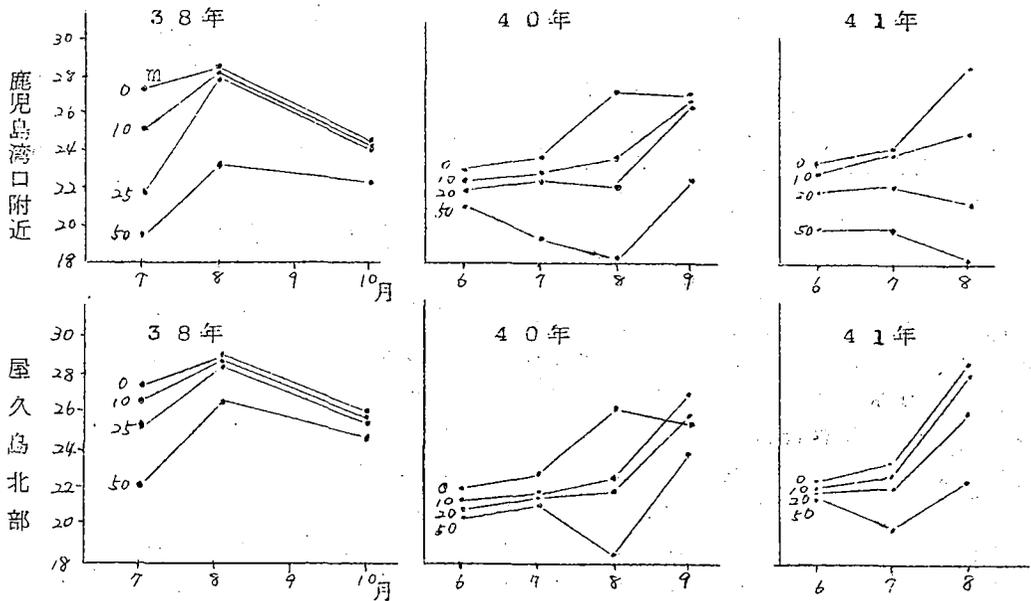
3、結 び

以上の条件を総合した41年のバシヨウカジキ流刺網漁況の見透しは以下のとおりである。

- (1) 漁場附近への沖合水流入の遅延により漁期はやゝおくれる可能性が強い。
- (2) 漁況としては、好漁年ではなく湾内では昨年同様不漁となる公算が大きいと思われるが、沖合のかい游状況からみて湾外では昨年をやゝ上廻る程度の漁と思われる。



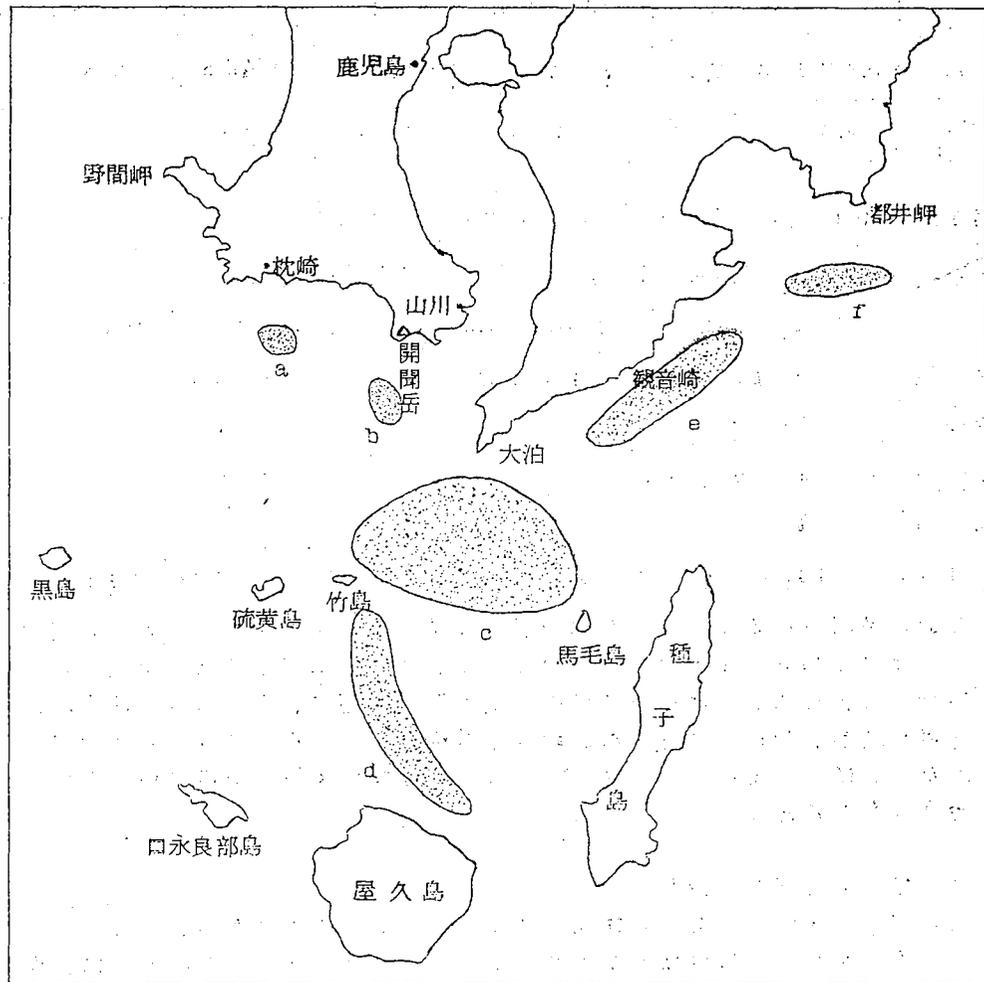
第1図 パシヨウカジキ漁獲量及び定置、八田網漁獲量の経年変化



第2図 水温変化図



れ藻に遭遇したのは僅か一度にすぎなかつた。



第2図 41年度ブリ仔採捕漁場

漁場 { a、b、c、d.....5月上旬～中旬  
e、f.....5月下旬～6月上旬

### 3、ブリ仔採捕状況

本年度は30隻のブリ仔採捕船が出漁にあたり4月下旬から6月上旬にかけて約838,000尾(水試船12,400尾を含む)の漁獲尾数をあげた。

この中でハマチ蓄養事業を営む自己採捕船23隻で約609,000尾、他の7隻はブリ仔稚苗生産者であつて約229,000尾を採捕し、県内ハマチ蓄養業者へ稚苗販売をしている。(第1表参照)

ブリ仔採捕状況を月旬別に区分すると下記のとおりである。

	4月下旬	5月上旬	5月中旬	5月下旬	6月上旬	計
尾数	28,475	337,036	109,830	270,805	97,254	838,400
%	2.8	40.2	13.1	32.3	11.6	100

第1表 4.1年度本県ブリ仔採捕と蓄養状況(7月末現在)

地区	経営体数	自己採捕尾数	購入尾数	販売尾数	斃死尾数	蓄養尾数
垂水	21	39,000	196,000	11,000	330,000	245,000
牛根	5	109,000	32,400	5,000	35,000	101,000
西桜島	3	40,000			25,100	14,900
鹿兒島	1	70,000			20,000	50,000
長島	1		1,000		200	800
計	31	609,000	229,400	16,000	410,700	411,700

なお、民間採捕30隻のうち第一磯丸17トン、生産丸10トンの2隻を除くと、すべて2.5～4トンの小型船であり、これ等は鹿兒島湾内を漁場とする八田網の付属船あるいは鹿兒島湾内底曳機船の転用で、山川あるいは大泊港を基地に出漁し、初めての外海における操業にもかかわらず多数のブリ仔を採捕出来たことは、今後の県内ハマチ蓄養事業を行なっていく上において貴重な体験であつたと考える。

#### 4、ブリ仔種苗管理と歩留り

県内蓄養尾数は、種苗受入れ尾数838,000尾であつたが、いよいよ、養成期となつた7月下旬には411,700尾で歩留り49.1%と約半数に減少している。

これ等の減耗は殆んど種苗管理時の5、6月におこり、30～50mm程度の小型魚が多かつたことも一因ではあるが、種苗管理時の餌の鮮度が大きな影響を与えているものと思われる。

#### 総括

1、今年度ブリ仔分布は鹿兒島湾に全くなく、過去3、4年出現分布のみられなかつた辺塚、観音崎沖合等に漁場が形成された。さらに、小型船の多数出漁で竹島、馬毛島、佐多岬を結ぶ区域が主漁場となり、亦10～17トンクラスの採捕船は従来の漁場からさらに南下することによつて、竹島、屋久島間に大型、且つ多数のブリ仔分布漁場を見出したことは今後のブリ仔採捕に際して大きな収穫であつたと考える。

2、自己採捕船等の基地は漁場が外海に形成された為、山川あるいは太泊港となつて帰港後のブリ仔採捕状況、分布状況、流れ藻状況等が互いに連絡され、且つ今回当場の試験船「かもめ」の目的の一つであつた自己採捕船への漁場探索操業指導、および漁場誘導も充分任務をはたすことが出来たと思われる。

3、蓄養業者のブリ仔受入れ尾数は、835,400尾に対し養成魚として確保出来たものは49.1%となり、きわめて悪い結果となつた。この原因は餌料に起因していると思われるので今後蓄養管理者には適切な種苗の管理技術の普及と餌料の栄養と消化、鮮度と貯蔵方法等について知識の向上を計つていく必要があると思われる。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
☆ 奄 美 短 信 ☆  
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

酷い夏が続いている。何処かの国で38℃台が一週間位続き28人、メキシコでは66人が死亡したと言う。核実験だ、やれ人工衛星打上げ、月への旅行と、地球と宇宙が身近かに感じられる昨今お天とう様も何万kmか我が奄美にも接近したのではないかと思われる位アスファルトの面は焼けつき、ビニール水槽の風呂は55℃にうなぎのほりで全く暑い。やがて室温も42,3℃台になつて人間種族絶滅かと考えたりするのも例年にない暑さの為だろうか。私が生徒の頃、太陽はどうして東から上るのかと先生に聞かれた時誰一人として答える者もなく、突飛に西から出た試しがないからと口走り本でたゞかれたのを思い出すが、時には西から出て奄美の地も雪に見舞われ、そしてゾットする寒さになつてみたい今日この頃ではある。

扱て、奄美短信なるもの121回の長きに亘つて多くの人々が島のハブ、紬、牛のトライ、バナナ、パイナップル、ヤンチュ、諸鈍、長浜のキュラムン等、その他も沢山書きつくされ何を記す事かと戸惑う。この暑さでは思考力にもぶり、近頃流行の無責任時代の言葉をかりて、翼なくして飛ぶものは声なりの如く、古代から伝わる島のむかし話でも方言をまじえて記すこと、しよう。その方が涼しくなりそうである。

古仁屋から船に乗つて約1時間半、波にポツンと浮かぶような島がある。島の

名は請島、沿岸はシラヒゲウニの多棲地で、その他タコ、イカ、エビが獲れ、大潮時には婦女子が漁灯をともし漁をする。とに角金はなくとも生きていける島である。だが少し時化になると一週間位は定期船は休み、旅の者は退屈で仕様がな  
い。何時だつたか、調査部のDさん、養殖部のYさん達が分場勤務のころ3名して探  
礁丸で島に渡り、時化でもないのに大波にあい命拾いした事もある。その島に半四郎  
なる人間がいた。月星印地下足袋のはやり始めの頃である。母のキクチヨに足袋を  
買って貰った嬉しさに石ころが落ちる工事現場で、友人がどけと言つてもアイヌ  
(そうではないとの意) 近頃はやりぬ(最新流行の意) ゴムタビ、ハチユリバ  
(はいておればの意) 大丈夫どあん(であるの意)と言つて足骨を打ち折られた  
間抜け太郎である。足袋をはいてさえおれば大丈夫と言つて山をかけ廻りハブ  
あたりした(ハブ咬傷のこと)とも聞く。ある日母のキクチヨが高倉に上り、半四郎  
カンナンニ(此処に來い)味噌がめをおろすからマリとクチ(底と上口の意)をつか  
めよ、ツカデナ(つかまえたかの意) ウキユツド(物をおろすこと)と言つて手を  
放した途端味噌がめは地に落ち真ぶたつに割れ、母のキクチヨはハゲヌガ(どう  
してそうしたかの意)と言いつら半四郎を見つめると、半四郎は母ちやんがマリ  
とクチをしつかりつかめと言つたからと言つて自分の口とマリ(尻)を押えて何  
時迄も立つていた。人が年を聞いたら3才の時生れたからと言つてチンブンカン  
ブン、水吸みに行つては、水をぬらした(水を全身にかぶつた意)とわめく、時に  
23才だつたとか、とりえとしては島一番の大工上手だつたとか、とにかくこつ  
稽な、新語を生み出す馬鹿と秀才の中間分子だつたのか。

ヌガ ヌガ 半四郎 マリ クチ ウビネン

(どうしたどうした半四郎そんなに分別がつかないのか)

マリ クチ ウビネン ノウキリヤヤ

(分別のない君は馬鹿ではないか)

ムロユン トジモ ウランバ イキヤシユリヨ

(君のところにくる嫁さんがいなければどうするか)

哀れさ 悲しやや 半四郎んめ

(哀れな、そして悲しい半四郎であることよ)……の歌もある。

とに角暑い、それにも負けず分場長以下皆それぞれその職務に精出しております。  
本土の皆様御健康祈ります。

( Y , S 生 )

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
☆ 業 務 概 況 ☆  
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

③ 本 場 分

○ 養 殖 部

✿ クロチヨウガイ病害対策試験

細菌性病害対策試験として挿核貝の薬剤浸漬処理を行なった。薬剤はペニシリン、ストレプトマイシンを使用し、8月2日の挿核直後と8月9日及び16日の3回にわたり繰り返し浸漬した。

予防効果は観察中である。 場所：坊ノ津町 (担当者 豊田 茂樹)

✿ フジツボ調査

福山地区8月1日、16日、竜ヶ水地区8月4日、18日に定期調査。

(担当者 前田 耕作)

✿ クロチヨウガイ人工採苗試験

7月21日以降垂水市海潟で試験中である。現在までに6回の人工授精を行ない、発生した幼生を飼育中である。7月30日の人工授精の分は8月24日現在附着生活に入つた。(担当者 瀬戸口 勇)

✿ イセエビ・フィロゾーマ飼育

6月27日～7月1日に桜島水族館でふ化した幼生を水試実験室で継続飼育中。8月20日まで7回の脱皮を行ない約80尾が生き残っている。海面での飼育及び、循環ろ過式水槽での飼育はいずれも斃死し、小容器での止水飼育のみ生き残っている。(担当者 山口 昭宣, 椎原 久幸)

✿ トコブシ産卵誘発試験

8月9日西之表市から輸送し、一時蓄養後8月17日に温度刺激による産卵誘発を試みたが、貝の衰弱がひどく受精卵は得られなかった。輸送中の衰弱防止について検討している。

(担当者 椎原 久幸, 山口昭宣)

✿ アコヤ採苗調査

6月上旬から県下9ヶ所の調査点で継続調査中のもので、資料の収集観察中である。(担当者 瀬戸口 勇)

✿ ノリ糸状体培養

前月に引続き培養管理中。出水市漁協培養場は8月24、25日に培養指導した。(担当者 新村 巖)

○ 製 造 部

✿ フジグルコンの水産煉製品への利用

煉製品の防腐性を高めるためpH調整剤としてラクトン添加の適正使用量を検討するため、市販する身について試験した。(担当者 是枝 登 外)

※ あく巻保存性向上

業界から提議された保存性向上の方法とし、灰汁浸漬綿末を塩ビ系皮膜に充填後加熱することにより目的を達した。(担当者 藤田 薫 外)

※ かつお腹皮くん製指導

(担当者 木下耕之進 外)

※ 指定工場巡回指導(鹿屋市、東串良町、内之浦町)

(担当者 是枝 登, 木下耕之進)

○ 漁 業 部

※ 照 南 丸

0 7月26日 山川上架

0 8月2日～8月9日 漁海況海洋観測 (担当者 徳留陽一郎)

0 8月24日～ 第2次海底調査のため出港 佐多岬近海。

(担当者 竹下 克一, 徳留陽一郎)

※ か も め

0 7月29日 下 架

0 8月3日～8日 近海マグロ延縄漁業試験 (担当者 岩倉 栄)

屋久島南～種子島東調査

0 8月17日 中層魚礁設置 (担当者 岩倉 栄)

沖小島北側に2ヶ設置

0 8月24日～ カジキ流網漁業試験のため出港(担当者 川上市正)

種子島近海調査の予定。

○ 調 査 部

※ 昭和41年度本県ハマチ稚苗採捕及び蕃養状況調査。

内容は本月号8頁 (担当者 荒牧 孝行)

※ ハマチ魚体測定

7月1日から人工餌料と魚肉ミンチによつて混用と切換えの2区を施設し試験中であるが1ヶ月後の定期測定を行なつた。餌付きはいずれも良好で、8月1日現在1尾平均250gとなつている。

(担当者 九万田一己, 上田 忠男, 弟子丸 修, 荒牧 孝行)

※ マダイ黒色化防止試験

先月に引続き、マダイ1尾平均900gのものを用いて試験続行中。

(担当者 上田 忠男)

§ 大 島 分 場 分

○ 庶 務 係

7月29日福元副知事来古 瀬戸内土木出張所で同地区県職員64名に対し訓示があつた。

○ 漁 業 係

※ 7月中旬 大和村漁業調査

当村沖合で3月～6月に漁獲されるサバについて調査をなす当漁業は屋間、疑餌針にて操業しているが、ゴマサバは大型魚で曾根付らしい。

10月末漁場調査の予定。

※ カツオ漁況 7月までは小判、中判の漁獲であるが8月上旬は大判の漁獲があり、漁況も活潑、漁場は角瀬、喜界曾根辺でこゝ当分好漁が期待される。

○ 養 殖 部

※ マベ室内採苗試験

第1回受精 7月29日

第2回受精 8月6日

○ 製 造 係

※ ウニ加工指導 (笠利地区)

※ ウニ加工試験継続中

※ 8月4, 5日 加工場使用 大判生切 3.600kg (茂野、平祐丸)